

平成27年度
西表島西部に生育する希少種マヤプシキ
生育状況調査報告書

2016/03/31

九州森林管理局 計画保全部
西表森林生態系保全センター

西表島の準絶滅危惧種のマヤブシキについて

1 はじめに

マヤブシキは、熱帯及び亜熱帯のマングローブに生える常緑の小高木で、高さ13mに達する。日本では、沖縄県の八重山地方の島々（石垣島、小浜島、西表島）のみに自生している。マングローブ植物の中では河口域に生育しているが、河口域の開発により自生地が減少傾向にある。このため、環境省のレッドデータブックの中で、現時点では絶滅危険度は小さいが、生育条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種である準絶滅危惧種（NT）に分類されている。

西表島では南部の大原から東部の美原にかけて生育しているが、美原から北西部の白浜（県道の終点）までは生育しておらず、これまで北部及び西部地域では、生育していないのではないかと考えられていたが、西部地域の陸路でのアクセスが困難なウダラ川の入り江に数個体の生育が確認され、当センターにおいて平成18年度に調査を行った。

今回、その確認された個体について備船して経過調査を行ったので、その結果を報告する。

2 生育地の概況

1) ウダラ川

①所在地

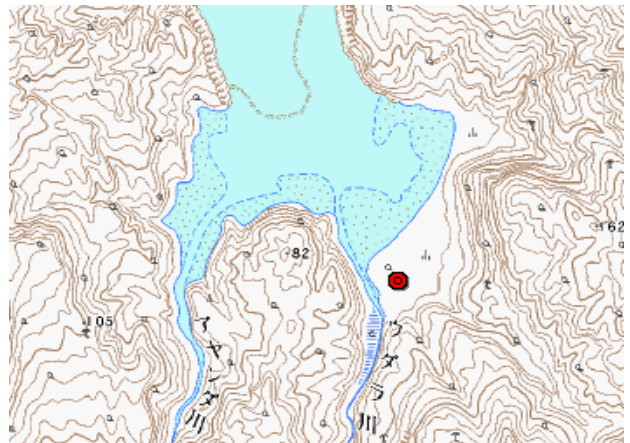
沖縄県八重山郡竹富町字西表国有林

163い林小班

位置図は右記を参照

②周辺状況

周辺は満潮時に海水が浸る泥湿地帯で、オヒルギ及びヤエヤマヒルギの混生したマングローブ林が発達している。



3 調査結果

①生育数 5個体

②胸高直径 5~25cm

樹高 5~10m

生育個体は大小ではあるがオヒルギ及びヤエヤマヒルギの混生林の中においてしっかりとした殉根を張っており近い間に枯損することはないものと思われる。

また、生育地は入り江から深く入り込んだウダラ川の入口に生育しており直接海側からの影響



は受けにくく現時点では問題はないと思われる。

4 まとめ

西表島西部地域に唯一確認されている個体であり、希少なマングローブでもあるため引き続き定期的なモニタリングを行っていくこととする。

平成 28 年 3 月 31 日

西表森林生態系保全センター

マヤプシキについて

- 1 和名 マヤプシキ
- 2 学名 *Sonneratia alba*
- 3 科及び属 ハマザクロ科ハマザクロ属
- 4 特徴

根：親木のまわりにまっすぐ上を向いた根を地上に出します

幹：幹の表面には長い割れ目がみられます

葉：葉の形は卵形で、葉の先は丸みを帯びています

花：花びらはありません。白く咲いているのは、おしべで、その中心で緑色をしているのがめしべです

実：1つの実の中には150-200個の小さな種がたくさん入っています



根



葉



花



実